

HAT CROSS

神戸赤十字病院広報誌
2012 vol.30

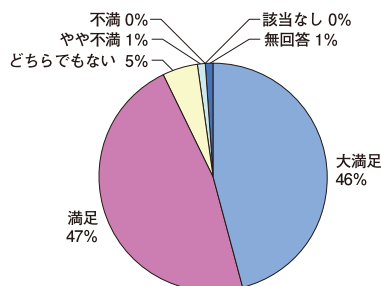
平成23年度

患者満足度調査結果

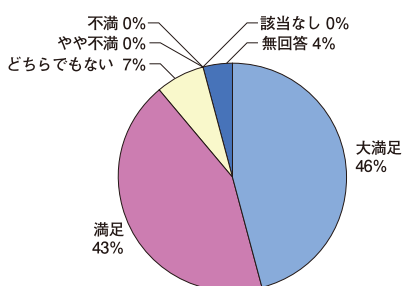
入院満足度

【医師について】

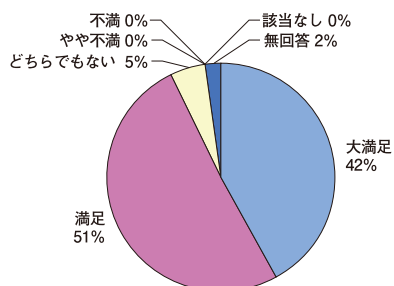
＊「医師の態度や言葉使いが良いと思われましたか」の質問に対して、不満・やや不満・どちらでもないが**6%**でした。



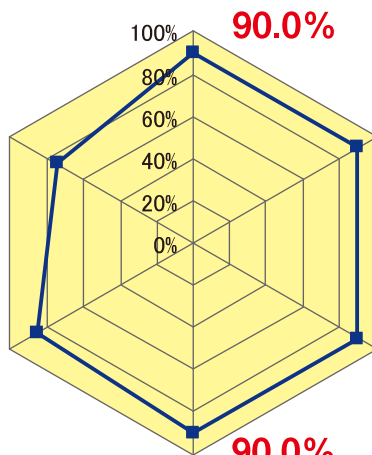
＊「医師の技術や知識に満足されましたか」の質問に対して、不満が**0%**、どちらでもないが**7%**でした。



＊「入院中に受ける、医師からの病状説明は十分理解できましたか」の質問に対して、不満が**0%**、どちらでもないが**5%**でした。



職員の身だしなみは整って
いましたか？(満足・大満足)



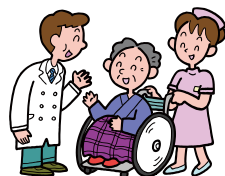
職員の態度や言葉遣いは
丁寧でしたか？(満足・大満足)
90.0%

あなたにわかりやすく説明
しましたか？(満足・大満足)
90.0%

質問や相談をしやすかった
ですか？(満足・大満足)

この病院に満足したので、
家族や友人に勧めたいと
おもわれますか？(思う)
74.1%

全体としてこの病院に満足
されましたか？(満足・大満足)
85.2%



外来満足度

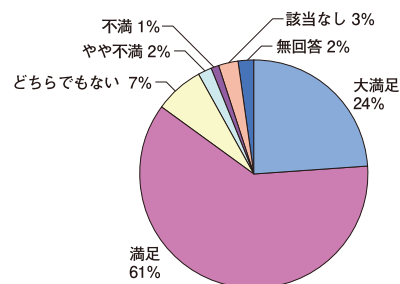
ご協力いただきました皆さま、
ありがとうございます。お寄
せいただきました患者さまのご
意見をもとに、患者さまに満足
していただける病院になるよう
職員全員全力を尽くしてまいり
ます。

外来においては、医師・看護
師をはじめ病院職員の身だしな
みや言葉使いは約90%の方に満
足いただいているようです。こ
の病院に満足いただいた方は85.2
%でしたが、知人に勧めたいと
思われた方は74.1%と少ないのが
気になります。

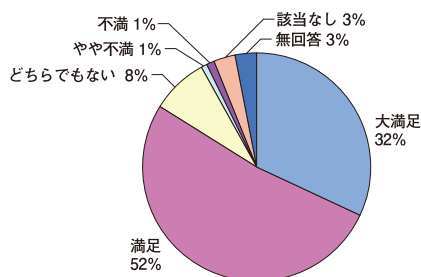
自分が良かったから『他の人
にもぜひ勧めたい』と言ってい
ただける病院にしていきたいと
思います。

【看護婦について】

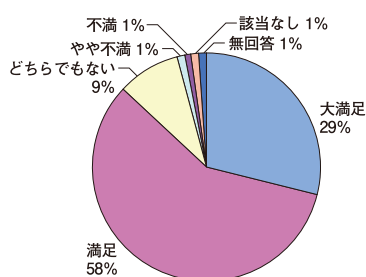
＊「入院時の看護婦の説明についてどのように思われましたか」の質問に対して、不満・やや不満・どちらでもないが**10%**でした。



＊「入院中に受けた日常生活の介助について満足していたかどうか」の質問に対して、不満・やや不満・どちらでもないが**10%**でした。



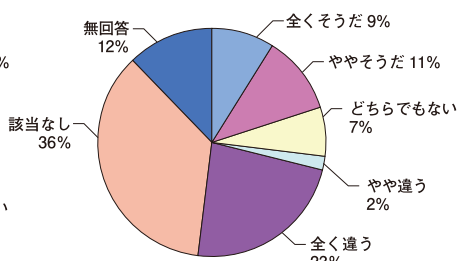
＊「看護婦の身なりや髪型は看護師として適切でしたか」の質問に対して、不満・やや不満・どちらでもないが**11%**でした。



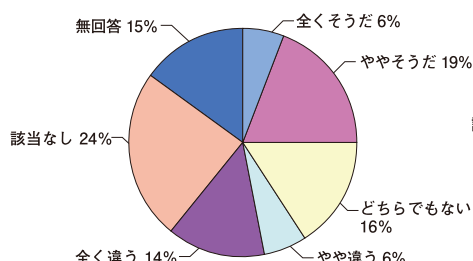
入院中に一番よくかわる看護婦の説明や態度において、1割もの患者さまから不満であるという回答を頂いていることに関しては、反省すべきと考えております。患者さまへの説明については、十分理解できるように心がけ、患者さまが納得して治療、処置が受けただけするように、さらに工夫を重ねてまいります。

また、今後は今まで以上に身だしなみ、患者さま（ご家族さま）への対応には十分な配慮を払っていききたいと考えております。

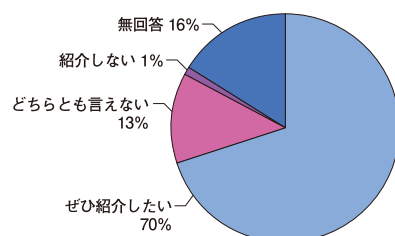
＊「氏名、病名、薬などを間違えられたことがありますか」の質問に対して、全くそうだが**20%**でした。



＊「同じ事を別々の職員から何度も聞かされたことがありますか」の質問に対して、全くそうだが**25%**でした。



＊「あなたの知人・友人がご病気で入院されることになった場合、当院をご紹介いただけますか」の質問に対して、ぜひ紹介したいが**70%**でした。



「氏名・病名・薬などを間違えられた」と20%もの患者さまが回答されていること「同じ事を別々の職員から何度も聞かれた」と25%の患者さまが回答されていることから、多くの課題を頂いたように思います。この課題の一つ一つに取り組み、患者さまが安心して、安全な医療を受けて頂ける病院でありたいと考えております。

また、病院の食事やトイレ等の環境についても、常に患者さまの立場でよりよいものとなるように改善していきたいと考えております。患者さまに満足していただける接遇や対応、病院環境の改善と課題はたくさんありますが、ひとつずつ改善を重ね、よりよい病院となるよう職員一同努力してまいります。

一度でも当院の外来を受診された患者さま（ご家族）や入院された患者さま（ご家族）から、知人・友人に紹介して頂ける病院を目指していきたいと思えます。

患者サービス向上委員会

呉竹礼子（看護部長）



「形成外科ってなに？」 開設のごあいさつ

田原 真也 形成外科部長

形成外科



左から)田原部長、佐藤医師、スタッフ一同

平成24年4月より、当院では形成外科を開設いたしました。形成外科は、「目に見える場所の外科」と考えて頂ければわかりやすいです。日本ではまだ歴史が浅く、なじみの薄い診療科かもしれませんが、その守備範囲は非常に多岐にわたっています。顔面外傷（顔面骨折を含む）、熱傷、小耳症・耳介異常、唇裂・口蓋裂、臍ヘルニア（でべそ）などの先天異常、皮膚・皮下腫瘍、キズアト・ケロイド、褥瘡や足壊疽などの難治性潰瘍、頭頸部癌・乳癌術後の再建、その他身体じゅうのあらゆる部位の病態を対象としています。また、従来では「仕方のないもの」「治らないもの」として諦められていた疾患・病態に対しても、形成外科独自の視点から、解決策・改善策を提案することが出来るかもしれません。ケガ、キズ、キズアトの治療はもとより、治りにくい傷も治療させて頂きます。われわれがお力になれるような困りごとがあれば、ぜひご相談ください。

現在のところ常勤医師2名体制で、手術および週3回の外来診療を行っておりますが、今後徐々に体制を充実させ、地域医療に邁進して参る所存です。何卒よろしくお願いいたします。

乳房再建について



不幸にも乳癌などで乳房を失ってしまった方のために、自家組織（自分の皮膚や筋肉）を移植するなどして、あらたに乳房をつくりなおす治療があります。形成外科では、この乳房再建にも力を入れています。また、乳房切除と同時に再建も行いう一期的再建に關しまして、乳腺外科の先生と相談しながら対応させていただきます。

形成外科で扱う疾患

顔面の骨折・けが
やけど
唇裂・口蓋裂
うまれつきの耳や手足の形態異常
皮膚腫瘍、皮下腫瘍（がんを含む）
きずあと、やけどのあと、ひきつれ、ケロイド
とこずれ、足の潰瘍・壊疽
乳房再建などの、がん術後の再建
眼瞼下垂、わきが、顔面神経麻痺の再建
その他、見た目に関する問題
など

スタッフ紹介

〈形成外科部長〉

田原 真也
たはら しんや
S 50年卒

神戸大学名誉教授

日本形成外科学会 専門医

日本創傷外科学会 専門医

日本形成外科学会評議員

日本創傷外科学会理事長

〈形成外科医師〉

佐藤 誠
さとう まこと

H 15年卒

日本形成外科学会 専門医



基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重し、根拠に基づいた、安心と満足が得られる医療を提供します。
2. 地域医療機関と連携して、地域全体で一貫した医療を提供します。
3. 救急医療、災害救護・国際救援活動を行います。
4. 内外の医療従事者の育成に努めます。
5. わたしたちは、日々研修・研鑽し明るく活力ある職場づくりに努めます。

神戸赤十字病院「患者の権利に関する宣言」

神戸赤十字病院は、医療の中心は患者さまであり、医療行為が患者さまと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであることを深く認識し、ここに、「患者の権利に関する宣言」を制定いたします。

当院の全職員は、この「患者の権利に関する宣言」を守り、患者さまの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。

1. 一人の人間として、その人格・価値観などを尊重され、医療提供者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。
2. だれでも、どのような病気にかかった場合でも、良質な医療を公平に受ける権利があります。
3. 病気、検査、治療、見直しなどについて、わかりやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報提供を受け、納得したうえで、検査や治療方法などを自分の意思で選ぶ権利があります。
5. 自分が受けている診断や治療について、他の医師の意見を求める権利があります。(セカンドオピニオン)
6. 自分が受けている医療を知るために、診療記録の開示を求める権利があります。
7. 研究途上にある医療に関して、目的や危険性などについて十分な情報提供を受けたうえで、それを受けるかどうか決める権利と、何らの不利益を受けることなくいつでも中止を求める権利があります。
8. 診療の過程で得られた個人情報の秘密が守られ、病院内での私的な生活を可能な限り他人にさらされず、乱されない権利があります。

ウガンダ赤十字社 母子保健事業派遣出発式

看護師 設楽 希代子



6月15日、ウガンダ共和国北部アチョリ地域に母子保健活動海外国際派遣される二星智恵子看護師さんの出発式が、病院玄関前で行われました。皆が見守る中、院長から激励を受け、後輩看護師に花束をもらう二星さんは、少し緊張しているように見えました。花束を受け取り出発に対する意気込みを皆の前で語り、出発式はほだなく終わりました。

二星さんの国際派遣は6月23日～3月9日までの9ヶ月間の間、現地で保健活動を行なう予定です。今回の派遣場所は、ウガンダというアフリカの地で、飛行機でも乗継をして約丸1日かけて移動しないと到着しない遠い所です。派遣場所に病棟のスタッフは心配しましたが、本人の希望も強く出発となりました。

二星さんは2年程前にも、海外国際派遣としてフィリピンに半年保健活動を行なった経験があります。前回活動中に院内メールで、現地の保健活動、町や人の暮らしといったものを教えてくれました。実際の現地では、大変なことも多いとは思いますが、いつもメールを読むと思わず微笑んでしまうような内容の活動報告であったように思います。それは、二星さんが現地に溶け込んで懸命に活動を行なったからだと思っています。

今度は9ヶ月という長い活動だけど、持ち前の明るさとポジティブさで大変なことも、きつと楽しんで活動してくると思います。病棟で会えないのはさみしいけれど、みんなで応援しています。頑張れ、二星さん!!



二星 智恵子看護師

今年9ヶ月という長い活動だけど、持ち前の明るさとポジティブさで大変なことも、きつと楽しんで活動してくると思います。病棟で会えないのはさみしいけれど、みんなで応援しています。頑張れ、二星さん!!

毎年恒例

七夕コンサート

臨床心理士 植木 佐緒里

玄関ホールに飾られた笹とたくさんの短冊のもと、7月4日、当院毎年恒例の七夕コンサートが開催されました。

今年は、『コール・フロラ』、『リコーダーアンサンブル・キフエフ』、『リコーダーアンサンブル・O.R.S.』の3つのグループ、総勢19名の皆さまによる、コーラスとリコーダー演奏でした。



コーラスでは、四季をテーマに楽曲が流れるように変わっていき、歌声を聴きながら、四季を感じることができました。また、「アヴェ・マリア」などの美しい歌声に、客席の患者さまもうつとりとした様子で、会場全体が穏やかな雰囲気になりました。

リコーダーアンサンブルでは、「星に願いを」や「七夕さま」など、七夕にちなんだ楽曲を演奏してくださいました。高音から低音まで奏でるリコーダーが並び、透き通るような音色で会場を魅了しました。

最後に、グループの皆さまが、客席の患者さまの傍へ行き、全員で「故郷」を合唱しました。

素敵な歌声や演奏を聴きながら、リズムをとられたり、歌を口ずさまれていた方がたくさんおられ、笹の葉や短冊もそれに合わせ揺れているようでした。一足早い七夕でしたが、皆さまの色々な思いや願いが詰まった素敵な時間となりました。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
神戸赤十字病院

神戸赤十字病院広報誌 HAT CROSS 2012 Vol.30

発行日 2012年8月

発行者 神戸赤十字病院 広報委員会

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3番1号

TEL (078) 231-6006(代) FAX (078) 241-7053

ホームページ <http://www.kobe.jrc.or.jp/>